

# 朝比奈川「かあ～らの会」伝統的河川工法の復活



朝比奈川 岡部町子持坂、村良



エノキの巨木に 木登りしてポーズ



エコクラブの自然体験活動

ふるさと「かあ～らの会」（子持坂地区の住民を主体として、活動団体と岡部中学校、岡部町が組織する団体）は岡部中学校の近くの朝比奈川の河川改修に合わせて、「ふるさと体験の場」をかあ～らの会が主体的に地域の人たちと協力して計画づくりを進めています。

● 岡部町子持坂（平成14年7月）

ふるさとの山と川づくり物語

自然と仲良く、自然の宝庫を上手に残して、上手に生かして、緑と潤いのふるさとをつくらう！！

古老達は、「ふるさと体験の場」づくりの話し合いの中で、昔、洪水から自分たちの村を守るために村中が総出で、川の近くにある竹を使って蛇籠を編み、「だし」（水制：棚牛）をつくってみお筋を替え、被害を最小限に抑えたことを思い出していた。自分たちの地域の治水の知恵を子ども達に伝えようと「だし」の復活の研究に余念がない。

今回（平成18年1月28日）は、川の自然について考えようと「島田エコクラブ」の子どもたちが、朝比奈川の巨木や竹じゃかごについて調査に訪れた。岡部中学校近くの「ふるさと体験」で地元川づくり団体「かあ～らの会」と島田土木事務所 岡部町の協力の元、洪水時、堤防を守る伝統的な技術「竹蛇籠（たけじゃかご）」づくりに挑戦し編み方を学んだ。堤防を守るためにコンクリート護岸や石を詰めた金網製のカゴマットが堤防に用いられてきたが、生物と共生する自然にやさしい川づくりの観点から、最近では、先人があみだした、自然素材を用いた伝統的な河川工法の技術が見直されている。

かあ～らの会メンバーも子ども達



と一緒に学ぼうと地域で昔、竹蛇籠づくりの経験のあった古老「小野さん」を講師におかえ、編み方のコツを教わった。本物は、直径約4.5cm、延長7mぐらいの筒状をしている。その中に河原の石を入れて堤防斜面や水制（だし）の上において固定していた。この日は、小型版で行った。編む材料の真竹からとった竹ひごは、この日のために小野さんが事前に準備してくれていた。子ども達は、試行錯誤しながら竹の独特のしなりや、肌ざわりを感じ一生懸命編んでいた。代々、竹蛇籠の職人を受け継いできた小野さんは、「自分が昔からやってきたことが、今になって見直されてきた事はすごくうれしい。子ども達に伝えることで自分も元気になる」と語っていた。

この日、子ども達は、その他に川べりにたつ巨木「エノキ」にロープをかけてブランコやターザンをしたり木登りにも挑戦した。今後、地元の川づくり団体「かあ～らの会」は、県と岡部町と協働で伝統的な河川技術「水制（だし）」の復元に向けて、本物の大きさの竹蛇籠づくりに今年、挑戦する予定である。



竹じゃかごづくり名人 小野さん

川のみらい・地域のみらいについて考える情報紙

# 瀬戸川通信 第22号

発行 瀬戸川フォーラム 平成18年 3月31日



瀬戸川 藤枝市本郷原地区 山桜

## 瀬戸川流域（焼津市）ネットワークキング会議 継続中

市民と行政が協働して瀬戸川・朝比奈川をより良い河川として、次世代へ継承していくため、市民参加により策定した瀬戸川水系河川整備計画にもとづき、「心なごむふるさとの川」を目標にしたい川づくりを進めています。

平成16年9月から行われてきています「瀬戸川・河口の川づくり」ワークショップですが、平成17年度も継続して2回のワークショップ（会議）が開催されました。「瀬戸川フォーラム」も前回と同様に進行役として参加しています。

自治会や行政の呼びかけによりたくさんの市民が参加をしていただいております、新しく参加をしていただいている方も多く、前回までの振り返りが重要となってきています。

この川づくりには、河川周辺の地域住民の皆さんや川に関わる活動団体と行政が協力し合って進めていくことが大切だと考えています。そのためには、それぞれの取り組みや活動を認め合い、活動をつなげ、広げていくため



17年度第1回目のワークショップ

の情報交換・交流を行うことを目的に、地域住民の皆さんや川に関わる活動団体と行政が情報交換を行う場を「（仮称）瀬戸川・朝比奈川流域や



第2回ワークショップ 山田先生から瀬戸川フォーラムの活動紹介

いづネットワーク」として位置づけました。この活動は、瀬戸川、朝比奈川の焼津市内を対象に、2～3年をめどに行政が主催・事務局となり、皆さんへの事務連絡等を行い、地域住民の皆さんや川に関わる活動団体と行政によりそれぞれが持つ情報を交換していきます。また、この場での意見交換などで、状況や必要に応じて、ゆるやかな活動連携を進めていくことも考えられます。

将来的には、このネットワークが主催となって、上流地域へも輪を広げた流域全体の情報交換や活動連携にしていきたいと考えています。



河口域の課題 ゴミ問題

### 協賛各社

- 黒川医院 菅ヶ谷内科医院
- 青島歯科医院（株）松浦恒産
- 岡歯科医院 小柳津久男事務所
- （有）桑原モータース
- 佐野設計工房一級建築事務所
- 服部歯科医院音羽町診療所
- （株）エクノスワタナベ
- （株）山田組 大鐘測量設計

### 瀬戸川フォーラム ネットワーク団体

- しずおか流域ネットワーク/志太自然ネットワーク
- 森林組合おおいがわ/静岡県島田土木事務所
- 瀬戸川 朝比奈川非出資漁業協同組合/ふるさと建設の会
- 大井川流域ネットワーク/水土里ネット大井川/志太エコクリエイト
- NPO法人 VIT/NPO法人 里の楽校/（社）藤枝法人会

瀬戸川フォーラムのHPもご覧ください。http://www.ryuikinet.gr.jp/setogawa/  
瀬戸川通信 編集責任者 大井川流域ネットワーク 小田 稔彦  
島田市中央町31-10 TEL 0547-36-0706

## 守りたいのは命、残したいのはきれいな水と空気

### 瀬戸川フォーラムの目的

1. 流域の自然の保全と文化の振興を図る。
2. 流域を中心に活動する市民の交流をすすめ、流域の望ましい姿を考える。
3. 子供たちの健全な成長にとって重要なふるさとの自然や文化に触れる環境や機会を設ける。

心なごむ  
ふるさとの川を  
「知る・楽しむ  
・守る」



# 元井戸 エコアップ 2006



## 市民・行政・企業(瀬戸川グランドワーク)が協働で「湧水池保全」に取り組む！ 地域の環境資源を守ろう！

### ★里山エコアップ

今年例年より早く桜のつぼみが膨らんだ3月25日(土)、地域の宝物「湧水池・元井戸」を守ろうと、瀬戸川フォーラムやNPO法人里の楽校、地元住民、行政(島田土木事務所、藤枝市役所有志)ら約80人(小中学生、大学生、保護者、大人)、企業が参加し、環境保全活動が1日行われた。



子どもたちによる里山エコアップ



みんなで協力し枯れ木を出しました



音羽町の自治会の方も大勢参加していただきました

元井戸は、石積みで囲まれた掘り抜き井戸で、藤枝市内を流れる瀬戸川沿いの金吹橋上流と下流に2つある。上流の元井戸周辺の山林が竹に浸食され、石垣が崩れたり、池の底に土砂がたまってしまいう以前に比べると湧水量が少なくなってきているなど、周辺管理が十分ではないために荒廃が進んでいる。

この日、参加者は元井戸が担う、歴史的役割や荒れた現状の話聞いた後、竹切り、枯れ木や枝の除去、ごみ拾い、下流部の小川の底にたまった土砂を取り除くなどのエコアップ活動を

行った。子ども達は枯れて倒れた木を力を合わせロープで引っ張ったり、切って山積みされた木や竹を運んだり汗を流した。みるみるきれいになっていく湧水池の姿に参加した子供や保護者はびっくりし、手ごたえを感じていた。

### ★元井戸 楽習

清掃活動が終わった後、すっきりしたこの場所にある木にブランコをつくり、楽しい場所に変化した事を子供たちは遊びながら感じた。



元井戸の歴史学習

元井戸のあるこの場所は今では訪れる人も少なく、放置されてきたが、江戸時代、東海道の往来が盛んであった頃、藤枝の宿場町の水路を潤す貴重な水源池の一つであり、生活用水として当時、大切にされていた。昔と比べて池底が目詰まりをおこし湧き出る量が少なくなったと言われるが、しかし今なお湧き出し続ける水は澄みきっており、池から小さなトンネルを通して小川へと流れ、ハヤやトンボ、ゲンジボタルなどたくさんの生き物を育てている。この池の水は、藤枝大祭の際用いる山車の木の車輪が劣化しないように浸けてある清い場所でもある。



大学生もたくさん参加してくれました



SBSラジオ 土曜日 「山田辰美の土曜はごきげん!!」 8時20分から 日産ラジオナビ スクーピーの取材を受け ラジオに生出演して元井戸のこれからの取り組みを伝えました。



これからもがんばるぞー!!おー!

### 協働の事例発表会 事例発表

「瀬戸川フォーラム」は、3月12日もくせい会館で開催された静岡県土木部主催の第2回協働事例発表会に2年連続で参加して、フォーラム活動の意義や経緯、課題などについて発表しました。当日は藤枝市音羽町自治会の皆さんや岡部町「かあ~らの会」の皆さんと一緒に発表しました。

県内各地から多くの参加者があり、「活動の参考とさせていただきます」などのご意見をいただきました。



協働の底力

### ★情報発信!!

### ★元井戸歴史研究

静岡古城研究会 会長の水野茂さん 「元井戸の石積調査」



下流にある元井戸 (かなり浅くなっています)

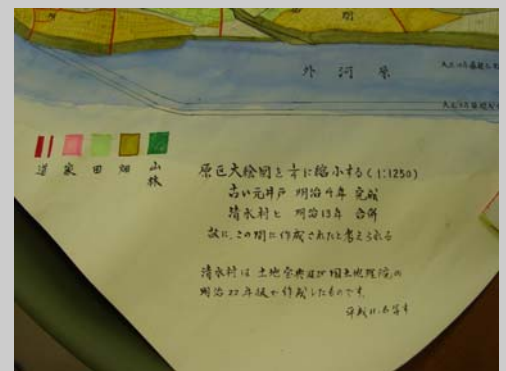


自治会の人たちも参加

「瀬戸川フォーラム」では、平成12年にふるさとの文化や自然を守る活動として行った環境調査でこの元井戸の存在に気づき、保全活動を6年間地道に行ってきた。昨年、5年目にしようやく地元の音羽町自治会と一緒に参加協力していただき、懇談会や専門家を呼んだ歴史調査・清掃活動などを行ってきた。今回初めて藤枝市役所や静岡県島田土木事務所もこの活動に加わっていただき、地域、市民、行政、企業が一緒に手を取り合って連携し、地域づくりの1つでもある水辺の再生に取り組むようになってきた。これからも三者協働で今後取り組んでいく予定である。今年の6月には、この元井戸で以前ふるさと風物詩となっていたゲンジボタルの保全のための学習会や元井戸周辺の歴史について学ぶ会を開催する計画をたてている。



地元に残っている絵地図(明治時代) 元井戸も掲載されています



絵地図を模写して説明を加えた 地図も残されています

### ふるさとの宝物「藤枝の宿場町の水源地:元井戸」の再生に連携!